

メインは木材チップの輸入

コンテナ貨物量も順調に

境港^{こう}は、昨年^{こぞ}の全体貨物取扱量が約323万ト^とでした。輸出貨物は約15万ト^とで、輸入貨物が約172万ト^と。国内への移出は約23万ト^とで、移入が約112万ト^ととなっています。境港の物流動向について、境港管理組合^{こう}(大正町)と境港貿易振興会^{こう}(竹内団地)に取材しました。

輸入の多くを占める木材チップ

昨年^{こぞ}の境港からの輸出は紙・パルプが多数で、次に木製品が続きます。送り先は中国、フィリピン、ベトナム、タイなどで、主にコンテナ船で運びました。

輸入で一番多くを占めるのは、木材チップです。続いて再利用資材で、境港市内のバイオマス発電所が使用する燃料になっています。3番目は原木です。

境港から国内に移出する品目で最も多いのは、氷を含む水です。次が重油で、貨物船や漁船などに積み込みます。その次は木製品です。

国内からの移入は軽油・灯油などが最も多く、セメント、ガソリンが続きます。いずれも境港から周辺地域の需要に応えるために運ぶものです。

コンテナ利用も増加傾向

昨年^{こぞ}のコンテナの総貨物取扱量は、2万3375TEU(1TEU=コンテナ1個分の単位で長さ約6m、幅2.4m)でした。

輸出は9755TEUで、紙・パルプ、木製品、非鉄金属など。輸入は6060TEUで、非金属鉱物、染料・塗料・合成樹脂、鉄鋼などです。

移出は3254TEUで、木製品、紙・パルプ、水産品でした。移入は4306TEUで木製品、非鉄金属、化学薬品などとなっています。

主な貿易相手はフィリピン、中国、韓国、タイ、ベトナムです。コンテナを運ぶ船は、韓国航路が週2便で、釜山を経由し全世界に貨物を運びます。また、韓

国・中国航路も週2便で、釜山や上海を経由して世界中に届けます。

一方、境港と東海を結ぶ日韓フェリー航路は乗船客の自動車や自転車などを積み込み、韓国への輸出品なども運びます。

また、国際フィーダー日本海航路は、神戸港・境港・京都舞鶴港・敦賀港の間で毎週1往復。神戸港経由で世界各地と接続しています。

さらに、コンテナ1本に満たない複数の企業の小ロット貨物を積み合わせ、釜山港経由で世界各地に輸送可能な小口混載輸出サービスもあります。

境港貿易振興会の竹中和彦事務局長は「夢みなとタワーでは、関係機関が連携して貿易を支援しています。ぜひ、相談に来てください」と話しました。

詳しくは、境港管理組合(☎42-3 7 0 6)、または境港貿易振興会(☎47-3 9 0 5)にお問い合わせください。



コンテナ貨物の航路を指し示す境港
貿易振興会の竹中和彦事務局長